

クリーンセンター滋賀だより No.9

2007年11月



財団法人 滋賀県環境事業公社

甲賀路に冬の足音が聞こえてくる晩秋の候、皆様方には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

平成17年9月から工事を進めてまいりましたクリーンセンター滋賀もいよいよ完成間近となり、公社職員一同開業に向け準備を進めているところです。甲賀市をはじめ関係住民の皆様には今後ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

クリーンセンター滋賀環境監視委員会の開催

第9回クリーンセンター滋賀環境監視委員会会議概要

1. 日時 平成19年6月8日（金）14:00～16:30
2. 開催場所
クリーンセンター滋賀工事現場およびJV現場事務所
3. 出席者 環境監視委員 14名
4. 議事概要
 - 1) クリーンセンター滋賀の工事の進捗状況について
 - 2) 環境影響評価事後調査報告（平成18年分）について
・河川水質、地下水質調査の結果について
・動植物調査の結果について
 - 3) 現地確認調査
・工事区画の最上部から工事全体の進捗状況を確認

第10回クリーンセンター滋賀環境監視委員会会議概要

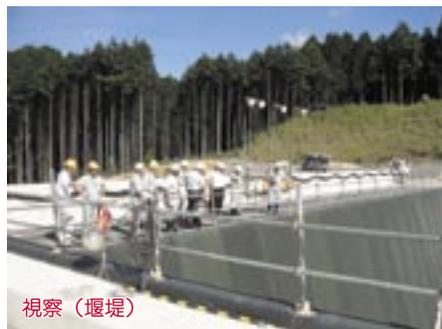
1. 日時 平成19年9月18日（金）14:00～16:30
2. 開催場所
クリーンセンター滋賀工事現場およびJV現場事務所
3. 出席者 環境監視委員 11名
4. 議事概要
 - 1) 現地確認調査
・工事区画の最上部から工事全体の進捗状況を確認
・堰堤から浸出水貯留槽、遮水シート、浸出水集排水管等の工事の進捗状況を確認
 - 2) クリーンセンター滋賀の工事の進捗状況について
 - 3) 搬入管理について
 - 4) その他



左岸から全景



JV現場事務所



視察（堰堤）

【主な意見および質疑】

- ・ガス抜き管の上方への延長はどのようにしていくのか。
→四角い箱型のを随時上に足し、ボルトで止めて延ばしていきます。
- ・通常作業する者の実力は大丈夫なのか。実際の廃棄物13品目(形、色、臭い等)がわかる人物が配置されるのか。目視検査はどうだったら受入可能なのか。受入廃棄物についてもっとわかりやすい基準が必要である。写真や数値で示し、受入可能な範囲(程度)についても決めておく必要がある。
→契約時にWDS（廃棄物データシート）、写真、現地調査などで、色は確認しデータベースに登録するのでそのデータを確認しながらということになります。汚泥等4品目については、蛍光X線検査で契約時と違う物が搬入されてくればわかります。その他の物については今後実際に搬入されてくる廃棄物を確認しながら検討していくことにしています。
- ・受入基準があるが、この記述を具体的なものとするための数値、写真などが必要ではないか。また、建設混合廃棄物はどの程度の分別・減量化・資源化が行われたらよいのかを示す具体的な基準が必要ではないか。
→今後、内部向けのマニュアルを整備していく際に、ご意見を参考に検討します。
- ・当初はきちんとしていても、経営が苦しくなれば受け入れが甘くなるというようなことはないか。
→契約時にきちんとすればチェックがゆるくなることはない（許可されていない物が入ってくることはない）と考えています。そのようなことにならないために開業後も引き続き当委員会で確認・監視をお願いします。
- ・日常業務をする人物、監視する人物等、開業後の組織体制はどうなるのか。
→公社職員が数名常駐し、全体管理、外部との調整、蛍光X線検査を行う予定です。また、受付から展開検査、場内運搬、埋立、覆土の作業、浸出水処理施設の運転管理および環境調査は外部に業務委託することを考えています。
- ・埋立作業については、マニュアルを作成し、埋立経験のある会社に業務委託するべきである。
→マニュアルについては作成中です。管理型処分場の埋立経験のある会社というのが、県内では大津公社しかありませんので難しいと思われます。
- ・作業委託を受ける業者に対する研修として、どこかの処分場で事前研修を受け入れてもらうまたは、他の処分場などから熟練した作業員を指導者として短期間派遣要請をしてはどうか。
→今後、ご意見を参考に検討します。
- ・公社職員のプロパーは雇用しないのか。処分場の事を当初から全て知っているという人が必要だと思う。県派遣の公社職員は数年で転勤されるので、わからなくなることが十分ありえる。「前任者に聞かないとわかりません。」では信頼は得られない。
→公社職員のプロパーの採用は難しいと考えられ、引継ぎ等の徹底を図っていくこととしています。
- ・産業界、廃棄物業界など排出業者に意見は聞いたのか。
→意見交換会を行い、それを反映させて排出業者向けマニュアルを作成しました。
- ・搬入管理マニュアルは何かを参考にされたのか。
→全国産業廃棄物連合会（全廃連）のものや先進地のものなどを参考にし、公社独自の考え方を盛り込んでおります。
- ・100年確率の雨では大丈夫ということとは別に、近年実際に降った集中豪雨の場合でも大丈夫であるという説明が必要ではないか。
→100年確率は、昭和33年から平成10年のデータで予測しましたが、近年のデータ（平成11年以降のデータ）でも確認します。
- ・非貯留部の漏水検知用電極配置(ベントナイト層の上に配置)はこれで良いのか。
→貯留部は遮水シートが2層なので上層シート(HDPE)の漏水を検知するよう下層シート(TPO-PP)との間に測定電極が配置されていますが、非貯留部は平面部分の下層シートの漏水を検知するよう測定電極が配置されています。
- ・スケール（カルシウムやマグネシウムの堆積物）が付着する等して、電極がダメになった場合はどうなるのか。
→精度が少し落ちる程度の影響も考えられるが基本的にはメーカーの行う厳しい暴露試験をパスしており、そんな事態は考えられないと施工業者から聞いています。



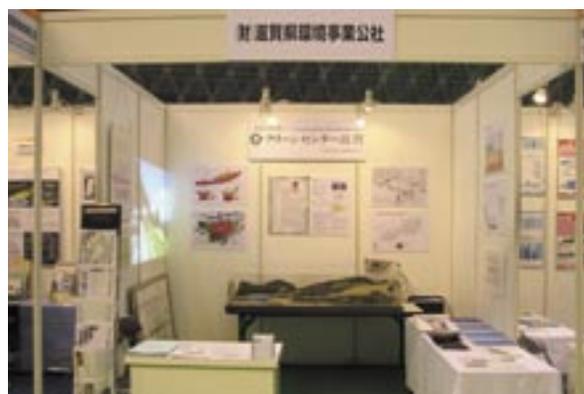
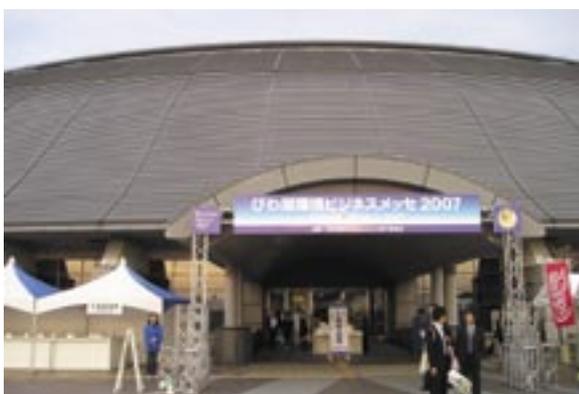
ガス抜き管

財団法人滋賀県環境事業公社は、県民の生活環境保全のために県内の産業廃棄物の適正な処理を公共関与により行うことを目的として、県・市町・関係事業者の出資で設立された公益法人です。

第5回こうか産業フェア2007(10/21)に出展し、クリーンセンター滋賀を広報しました。



びわ湖環境ビジネスメッセ2007(10/24~10/26)に出展し、クリーンセンター滋賀を広報しました。



環境影響評価の事後調査を実施しています。

クリーンセンター滋賀では、滋賀県環境影響評価条例および『(仮称) 淡海クリーンセンター甲賀設置事業環境影響評価書』に基づいて、平成16年から事後調査を継続して実施しています。

今回は、生物についての工事中のモニタリング調査の様子と、移植した生物の、その後の確認状況についてお知らせします。

*なお、事後調査結果は毎年度報告書としてまとめて縦覧に供しています。

1. 工事中の影響の監視状況

(1) 魚類全般

主に確認されているのは、カワムツ、ドンコ、カワヨシノボリなど、上流の細い流れに生息する種です。



(2) 底生動物全般 (水中に生息する昆虫、エビ・カニ類、貝類など)

主に確認されているのは、シロハラコカゲロウ、コガタシマトビケラ属の一種、エリュスリカ属の一種などで、きれいな水質を好む種も含まれています。



(3) 付着藻類全般 (川底の石などに付着している藻類)

主に確認されているのはケイソウ類で、ハラナミクチビルケイソウなど、きれいな水質を好む種も含まれています。

工事による濁水で一時的に汚濁に強い種が優先種となる時期がありましたが、現在のところ水生生物などへの影響は概ね小さいと考えています。



2. 移植後の生息・生育状況の確認

(1) カスミサンショウウオなどの両生類

移植したカスミサンショウウオなど、7種の両生類のうち、イモリ、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、モリアオガエルの6種が確認できました。確認できなかったのは、ニホンヒキガエルでしたが、生息状況は概ね良好であると考えています。

(2) ギンブナ

仮移植先での生息が確認できましたので、生息状況は概ね良好と考えられます。今後、モニタリングにより生息状況を確認し、適切な時期に代替池への本移植を予定しています。

(3) ゲンジボタル

移植した箇所周辺(付替え区間上流の次郎九郎川)での生息が確認できましたので、生息状況は概ね良好と考えています。



(4) エビネ

移植したエビネは、開花が確認されるなど、順調な生育が確認できました。

発行：財団法人 滋賀県環境事業公社 甲賀支社
 住所：甲賀市甲賀町大原市場744
 電話番号：0748-88-9191
 FAX番号：0748-88-6322
 メールアドレス：aef88910@tree.odn.ne.jp
 ホームページ：http://ice.candy.ne.jp/~ie-kankyo/